



できる楽しさいっぱい 優しさいっぱい 元気いっぱい

令和8年度6月号

早稲田小だより

1年60名 2年42名 3年50名
4年57名 5年70名 6年61名
計 340名

子どもたちのまっすぐな努力に学ぶ

校長 中西健二

運動会前のある土曜日。最高気温が25度を超える夏日だった。

運動場では 6年生女の子2人が二人三脚の練習をしていた。

照りつける日差しの中「せーの！」の掛け声が響き 一本一本 息をそろえて走り抜く。時にはバランスを崩し 思うように進めないこともある。それでも2人は 何度も何度も挑戦を繰り返していた。そのひたむきな姿に 心を動かされた。

さらに運動会の3日前。

5・6年生表現種目「フラッグダンス」の練習中 水分補給の休憩時間になり 多くの子どもたちは木陰へ向かって行った。しかし その場に一人残り 黙々と自主練習を続けている女の子がいた。一つ一つの動きを丁寧に確かめながら いっさい手を抜かずにフラッグを振っている。よく見るとその子は 土曜日に二人三脚の自主練習をしていた女の子だった。

誰かに言われたからではない。自分自身が納得できるまで努力を続ける。その姿には6年生としての責任感と「仲間と最高の運動会をつくりたい」という強い思いがあふれていた。

そして 運動会に向けた全体練習の日のこと。

開会式で 児童代表挨拶を任されていた6年生の男の子。

全校児童が参加する開会式練習。彼は朝礼台の上で一生懸命に挨拶をした。しかし 緊張からか言葉が少したどたどしくなった。挨拶を終え 朝礼台を降りた後 彼はそっと涙をぬぐった。

その姿に 再び胸を打たれた。

「責任を果たしたい」「皆の前で堂々と挨拶したい」という強い思いをもっていたからこそその涙である。その涙は「弱さ」ではない。むしろ 自分の役割に真剣に向き合っているからこそその 尊い涙である。

思うようにできず 悔しい思いをする。それでも逃げずに もう一度挑戦しようとする。

その積み重ねこそが 人を成長させていくのだと思う。

運動会は 勝ちに真剣にこだわる中で 貴重な学びを得ることができる場である。勝つために仲間と心を合わせ 努力を重ね 自分の弱さや壁を乗り越えようとしていく。そうした体験を通して子どもたちは大きく成長していく。

今 早稲田小には そんな子どもたちのまっすぐな努力の姿がある。

私は校長として その姿をととても誇らしく そして頼もしく感じている。

運動会前日の昼すぎまで雨が降り続いていた。1年生のある女の子は 家で「てるてる坊主」を6つも作ってくれたという。その願いが届いたかのように当日は最高のコンディションの中で 第 142 回運動会を無事に開催できた。

運動会までに子ども達一人一人が流した汗や涙。そのすべてが輝きとなり 感動的な運動会となった。接戦の末敗れた紅組応援団長の涙が 今も忘れられない。

<保護者の皆様へ> 運動場を一周取り囲むように、途切れることのない温かな声援を送っていただき、まるでスタジアムの中で運動会を行っているような感覚でした。また、PTA 役員の皆様には運営面で多大なるご協力をいただき、片付けの際にも多くの保護者の皆様にお力添えをいただきました。さらに、終了後に残されていたごみは、ジュースのアルミ缶がたった一つだけでした。皆様のマナーとご配慮に、心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。